

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果

2. 算数の調査結果の概要

正答率の高い項目

問題の概要	問題形式	正答率
1 (2) はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。	選択式	91.2%
3 (1) 作成途中の直方体の見取り図について、辺として正しいものを選ぶ。	選択式	86%
5 (1) 円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く。	短答式	77.2%

正答率の低い項目

4 (3) 家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。	短答式	19.3%
3 (3) 直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。	短答式	28.1%
5 (3) 折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。	記述式	43.9%

(1) 分析

正答率の高い項目と、正答率の低い3つの項目について分析を行った。

＜正答率が高い項目＞結果から、以下の内容が多くの子童へ身に付いていることが分かった。

- ① 数量の関係を問題場面通りに口を用いた加法の式に表すこと
- ② 直方体の見取り図について理解し、面と面、辺と辺等の位置関係に着目してかき表すこと
- ③ 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること

＜正答率が低い項目＞結果から、以下の内容に多くの子童が苦手意識をもっていることが分かった。

- ① 球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式で表すこと
- ② 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること
- ③ 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述すること

以上の理由として、

- ① 3.14を用いて答えを求めようとする子童が多いことから、立方体の体積の求め方を理解していないためと考えられる。
- ② なぜそのような考えになったのかを書いて説明する機会が少なかったためであると考えられる。
- ③ 条件に当てはまることを見付けて事柄を書くことが苦手、かつどのように書けばよいかわからない子童が多いからであると考えられる。

(2) 対策

◎立体図形に関わる知識の習得や数学的活動を通して、体積の求め方を理解させる。

立方体及び直方体の体積の計算による求め方を、タブレット端末を活用してドリルパークや補助教材で繰り返し計算に取り組み理解する。また、図形の性質を理解し、身の回りの図形として捉えさせる。

◎複数の情報から必要な条件を読み取る場面を増やす

多くの情報が提示されている時に「どの情報が必要なのか」資料を見て読み取る力を高める必要がある。情報活用能力を高め、資料から何を読み取ることができるのか自分で考える活動を意識的に設定する。また、自分の考えをノートにまとめ、説明することに慣れさせる。